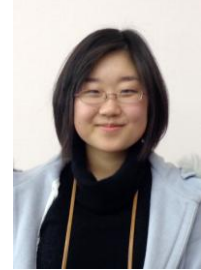


和歌山病院実習感想レポート



松田 真以子

今回実習するまで、和歌山病院についてほとんど知りませんでした。和歌山病院に結核病棟があると聞いて、去年授業で和歌山に結核病棟のある病院は1つしかないという話を思い出した程度で、そもそも結核病棟についての知識はほとんどありませんでした。

結核病棟と聞いて、血液内科の無菌室のような、閉鎖的な空間を想像していました。実際結核病等には二重扉やエアーカーテン、陽圧部屋など、医大の無菌室と同じような構造だったのですが、患者さんは部屋の中ではマスクをせず、部屋の雰囲気も他の一般病棟と変わりませんでした。想像していたよりも明るく開放的で、自分の結核病棟に対するイメージがかなりかわったので、結核病棟を実際に自分の目で見られたのは本当にいい機会だったと思います。他にも酸素マスクを実際に着用したり、 SpO_2 を計ったりさせて頂きました。息を止めて SpO_2 90%以下にする実験の時、 SpO_2 90%がどれだけ苦しいか、また息を止めてから機械の数値として反映されるまでにタイムラグがあることを体で実感することができました。

また、院長による胸部レントゲンの読影について、レントゲンの仕組みから丁寧にわかりやすく教えて頂きました。レントゲン画像に対しては苦手意識があったのですが、基本的な考え方を教えていただいた今は、もっと多くのレントゲン画像を見て勉強したいという気持ちになっています。

今回和歌山病院で院長先生をはじめとして多くの先生方、職員の方々にご指導いただき、大変充実した実習になりました。とても楽しかったです。本当にありがとうございました。